

学生と語り合い下水道PR

GKP 日大理工学部で出前講座 未来会



業界内の各業種との関係の踏まえ、学生と意見交換

下水道広報プラットフォームのGKP未来会はこのほど、日本大学理工学部で出前講座を開き、土木工学科の環境系研究室に所属する3年生15人が参加した。学生との交流を通じ、就職先の1つに下水道業界を考えてもらうことが狙い。下水道の役割や仕事を紹介した

冒頭、あいさつした同学部の齋藤利晃・教授は「社会貢献に対する意識が高い学生が多く、下水道の業務ともマッチするのでは」と期待を込めた。学生からの発表では、太田浩二さんが希望の職種、頼重一輝さんが就職先選びの基準、安藤航洋さんが就職先としての下水道のイメージについて、事前に研究室で実施したアンケート結果を紹介したほか、自身の考えを発表した。

太田さんは、安定性と地域貢献性の高さから公務員、専門知識を生かせるのでコンサルタントが学生の間で人気だと説明。「講義を受けていく中で、上下水道に関わる仕事に就きたいと考えるようになった。幅広い事柄と並行して1つの物事に精通した人間を目指しているの、水コンサルタントの仕事に惹かれる」と語った。

頼重さんは、研究室内での就職先選びの傾向は、生活面よりの仕事面を重視している割合が高く、その中でも、企業の実績・業務内容、職場環境や地域貢献に軸足を置いている人が多いと紹介。「個人的には、営業利益や過去の実績を最優先して企業を選びたい。」

収入が多い方が安定した生活を送ることができ、家庭を持った時も安心」と述べた。

安藤さんは、下水道業界について、人々を支えるやりがいのある仕事、将来性や需要があるというプラスのイメージが学生から寄せられた一方、他業界に比べて人気と認知度が低い、少し汚い印象があるなど、マイナスな意見も出たと説明。「多くの下水道施設が更新時期を迎えているほか、汚泥の資源化などの日本の高い技術力は世界で注目されている。下水道業界において、若い我々が担っていく役割は、ますます重要になっていくのでは」と話した。

続いて、グループコミュニケーションに移動した。高下社長は、高下社長は社長交代について「2020年は業容倍増に向けた長期ビジョンと新中期経営計画が4月からスタートするなど、当社にとって節目の年。新しい時代のスタートにあたり積水化学グループを新しい人に引き継いでもらいたいと考えたと説明した。また、大阪府出身。



高下貞二・社長が代表権のある会長に就く人事を発表した。同日、都内で会見を開き、社長交代の理由や今後の方針を説明した。業容倍増を目指す、現在策定中の長期ビジョンの最終年度となる2030年度に2兆円の売上を目指す方針を明らかにした。

専務は「積水化学はこの5年間、M&Aを含む戦略投資と構造改革による収益力強化、ESG経営の本格導入により新たな成長へシフトすることができた。現在、2030年度の業容倍増を目指す長期ビジョンとその第一歩となる新中期経営計画の策定中だが、その実現に向けESG経営を磨き上げることが私の使命だ」と抱負を述べた。

高下社長は社長交代について「2020年は業容倍増に向けた長期ビジョンと新中期経営計画が4月からスタートするなど、当社にとって節目の年。新しい時代のスタートにあたり積水化学グループを新しい人に引き継いでもらいたいと考えたと説明した。また、大阪府出身。

加藤専務のこれまでの業績・人柄について、技術開発に精通し、グローバルに事業を展開できるリーダーだと評した。

（かとう・けいた）昭和55年3月京都大学工学部卒業。同年4月に積水化学工業に入社。執行役員高機能プラスチックカンパニー中間課課長、同カンパニー新事業推進部長、同カンパニー開発研究所長、取締役専務執行役員機能プラスチックカンパニープレジデントなどを経て、今年1月から代表取締役専務執行役員ESG経営推進部担当、経営戦略部長。昭和33年1月11日生まれ、62歳。

元の周りには先輩、同僚、後輩、俊三さん」と集まった。「水道一家」を大切にしている人。昭和から平成の激動の時代に生きていたが、意外にシャイな配りしてその場を和ませている。内輪の飲み会になると「俺はだらいろいろ貴重なことを教えそこから得たものは大きい、先輩にも助けられたなあ」と語り水道の歴史が語り継がれるのを望んでいた。二次会のカラオケで、耳元にハンカチをあて「傷

ほか、学生が就職に対する意識を発表した。また、未来会と学生でグループコミュニケーションを実施した。

高下社長は社長交代について「2020年は業容倍増に向けた長期ビジョンと新中期経営計画が4月からスタートするなど、当社にとって節目の年。新しい時代のスタートにあたり積水化学グループを新しい人に引き継いでもらいたいと考えたと説明した。また、大阪府出身。

加藤専務のこれまでの業績・人柄について、技術開発に精通し、グローバルに事業を展開できるリーダーだと評した。

り、国土技術政策総合研究所、日本下水道事業団、前澤工業、極東技エコンサルタント、NJS、メタウォーター、東亜グラウト工業に所属する若手が、業界内における各業種との関係が踏まえ、下水道の仕事について学生と語り合った。

講座終了後、学生からは「様々な業種が関わる下水道は、どんな業種でも社会貢献できるとわかったので、就職先の選択肢が広がった」、「志望先のコンサルタント以外の人と関わる機会が無かったので、こうした場で他業種の方から話を聞けるのは大変ありがた」、「公務員の業務は、住民説明がメインだと思っていたが、企業と協力して技術的なことも考えていくことがわかり、思ってもいなかった魅力を知ることができた」などの感想が寄せられた。

「水道一家」を大切にしている人。昭和から平成の激動の時代に生きていたが、意外にシャイな配りしてその場を和ませている。内輪の飲み会になると「俺はだらいろいろ貴重なことを教えそこから得たものは大きい、先輩にも助けられたなあ」と語り水道の歴史が語り継がれるのを望んでいた。二次会のカラオケで、耳元にハンカチをあて「傷

ほか、学生が就職に対する意識を発表した。また、未来会と学生でグループコミュニケーションを実施した。

高下社長は社長交代について「2020年は業容倍増に向けた長期ビジョンと新中期経営計画が4月からスタートするなど、当社にとって節目の年。新しい時代のスタートにあたり積水化学グループを新しい人に引き継いでもらいたいと考えたと説明した。また、大阪府出身。

加藤専務のこれまでの業績・人柄について、技術開発に精通し、グローバルに事業を展開できるリーダーだと評した。

り、国土技術政策総合研究所、日本下水道事業団、前澤工業、極東技エコンサルタント、NJS、メタウォーター、東亜グラウト工業に所属する若手が、業界内における各業種との関係が踏まえ、下水道の仕事について学生と語り合った。

講座終了後、学生からは「様々な業種が関わる下水道は、どんな業種でも社会貢献できるとわかったので、就職先の選択肢が広がった」、「志望先のコンサルタント以外の人と関わる機会が無かったので、こうした場で他業種の方から話を聞けるのは大変ありがた」、「公務員の業務は、住民説明がメインだと思っていたが、企業と協力して技術的なことも考えていくことがわかり、思ってもいなかった魅力を知ることができた」などの感想が寄せられた。

備えておきたい災害対策

～災害に強い街づくりを市民とともに～

下水道管の配管清掃作業回数を大幅に低減!!

電磁場水処理装置 アクアパルス

油汚れやスケールの配管付着抑制に効果を発揮する水処理装置。

